

2025 年 9 月 1 日

学会会員外（一般）の皆様へご案内 2025 年度（第 12 回）農業労災シンポジウムの開催について

日本農業労災学会

平素より本学会活動につきましては、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り、第 12 回農業労災シンポジウムを開催することになりました。今回のシンポジウムは、対面とオンラインの併用によるハイブリッド開催を予定しています。

本シンポジウムは、農作業事故防止に関心を持っておられる学会会員以外の一般の方にも有料（2,500 円）にて対面でもオンラインでもご参加いただけるようにしております。このシンポジウムに興味のある方は、下記に示す要領でお申し込みください。

記

I 第 12 回農業労災シンポジウムの概要

1. 開催日時：2025 年 10 月 17 日（金）13:00～17:00
2. 会 場：ハイブリッド開催
東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学世田谷キャンパス
国際センター2F 榎本ホール +Zoom によるオンライン
3. 主催団体：日本農業労災学会・東京農業大学総研研究会 3 研究部会
(労災対策研究部会・就農者推進教育研究部会・農業協同組合研究部会)
4. 後援団体：JA 全国組織、JA 単協等
5. シンポジウムの統一テーマ『地球温暖化時代における熱中症対策を考える』
6. シンポジウムの開催趣旨

熱中症とは、高温多湿な環境で体温調節機能が乱れて体内に熱がこもった状態になる病気で、重症化すると命の危険を伴うこともあります。毎年深刻化する地球温暖化の影響は作物・家畜だけでなく、農業労働を担う農業者の安全の大きな脅威となっています。農林水産省によれば、農作業中の熱中症による死亡者は直近 10 年間で 259 人と農作業死亡事故のうちの約 1 割を占めています。特に高齢者で多く発症しています。熱中症の予防については、炎天下での作業、高温多湿のハウス内での作業などの作業環境のリスクへの対応、自覚症状等の異変の早期の発見と対策、作業環境・作業の服装改善などによる総合的な予防対策が重要です。

本シンポジウムでは、総合的な熱中症予防政策、医学的な見地からの熱中症予防・応急対策、農協などの熱中症対策の取り組み、さらには熱中症予防のための各種のアイテムの活用など、熱中症を防いで安全に農作業を行うという視点から、各分野から情報提供をいただき、意見交換を行いたいと考えています。

7. プログラム

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～13:20 座長解題
13:20～15:10 基調講演 1名(30分)、講演 4名(各20分)
15:25～16:05 補足意見ならびにコメント 4名(各10分)
16:05～16:55 総合討議(座長総括を含む)
16:55～17:00 閉会挨拶

※詳細は下記の開催要領をご参照ください。

II シンポジウムへの参加申し込み及び参加費の支払い方法

1. 参加申込期限と申込方法

シンポジウムに参加希望の方は、次の Google フォームより、9月24日(水)までにお申し込みください。参加登録後は、申込時に入力したメールアドレスに連絡させていただきます。

<https://forms.gle/1BsnKS85P9hzd8Dv7>

2. シンポジウム参加費として、2,500 円を徴収させていただきます。

シンポジウムに参加を申し込まれた方には、9月25日以降に学会事務局より払込取扱票を郵送いたします。参加費は、その払込票に必要事項を記入の上、ゆうちょ銀行(郵便局)より学会振替口座宛に10月10日(金)までに送金してください。

口座記号・口座番号 00150-3-360213

加入者名 日本農業労災学会

3. 開催までのプロセス

シンポジウム参加登録が完了し、参加費の送金が確認された参加登録者には、10月7日(火)以降に順次、メールにて Zoom 接続のための URL や報告要旨のダウンロード方法等についてご案内をいたします。

III. 学会事務局、問合せ先

本シンポジウムについての問合せは、学会事務局までお願いいたします。

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 KS ビル4F 株式会社農林水産広報センター内

TEL 03-6380-8955/FAX 03-3239-7344/E-mail a-rosai@circus.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://jfapn.jp/>

※本学会に入会を希望される方は、本学会のホームページにアクセスいただき、入会申込書にご記載の上で本学会事務局宛に FAX 等でお送りください。

以 上

日本農業労災学会第12回シンポジウム開催要領

テーマ

地球温暖化時代における熱中症対策を考える

シンポジウム趣旨

熱中症とは、高温多湿な環境で体温調節機能が乱れて体内に熱がこもった状態になる病気で、重症化すると命の危険を伴うこともあります。毎年深刻化する地球温暖化の影響は作物・家畜だけでなく、農業労働を担う農業者の安全の大きな脅威となっています。農林水産省によれば、農作業中の熱中症による死亡者は直近10年間で259人と農作業死亡事故のうちの約1割を占めています。特に高齢者で多く発症しています。熱中症の予防については、炎天下での作業、高温多湿のハウス内での作業などの作業環境のリスクへの対応、自覚症状等の異変の早期の発見と対策、作業環境・作業の服装改善などによる総合的な予防対策が重要です。

本シンポジウムでは、総合的な熱中症予防政策、医学的な見地からの熱中症予防・応急対策、農協などの熱中症対策の取り組み、さらには熱中症予防のための各種のアイテムの活用など、熱中症を防いで安全に農作業を行うという視点から、各分野から情報提供をいただき、意見交換を行いたいと考えています。

プログラム

開 会	13:00
開会挨拶	13:00～13:05
日本農業労災学会 会長 田島 淳	
東京農業大学 学長 江口 文陽	13:05～13:10
座長解題	13:10～13:20
座 長 半杭 真一（東京農業大学教授）	
鈴木 祐子（株式会社日本農業新聞論説委員室論説委員長）	
基調講演（30分）	13:20～13:50
熱中症対策の推進について	
・・・・・・ 美保 雄一郎（農林水産省 農産局技術普及課生産資材対策室長）	
講 演（各20分）	
講演1 医学的に見た熱中症の予防・発症時の対応について	13:50～14:10
・・・・・・ 神田 潤（日本緊急医学会、熱中症および低体温症に関する委員会・委員長）	
講演2 大塚製薬の熱中症対策への取り組み	14:10～14:30
・・・・・・ 奥山 元博（大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 ソーシャルヘルス・リレーション部）	

講演 3	熱中症対策商品の開発とその機能 ・・・・・・・・ 山下 健一郎（ミドリ安全株式会社 環境用品営業室 室長）	14:30～14:50
講演 4	J A 共済における熱中症への対応と地域貢献について ・・・・・・・・ 山口 哲央（J A 共済連全国本部 農業・地域活動支援部）	14:50～15:10
<休 憩>		15:10～15:25
補足意見ならびにコメント（各 10 分）		
その 1	（JA 組織としての熱中症対策への取り組み） ・・・・・・・・宮永 均（JA はだの 代表理事組合長）	15:25～15:35
その 2	（労働安全衛生規則の改正と熱中症対策の義務化・認定上の課題） ・・・・・・・・橋本 将詞（社会保険労務士事務所社労士 所長）	15:35～15:45
その 3	（農業法人による熱中症対策・労災防止対策の実践） ・・・・・・・・初本 真澄（株式会社 真庭技建 総務部部长、岡山県） 【サポート：藤井 明子（合同会社 AKIAGRI 代表社員）】 ・・・・・・・・大森 孝宗（有限会社 あぐり、愛媛県）	15:45～16:05
総合討議	（座長総括含み 50 分）	16:05～16:55
閉会挨拶	日本農業労災学会 副会長 宮永 均	16:55～17:00
閉 会		17:00